

メルマガ「とちぎ通信」 2022年冬号（第36号）

■とちぎ型大使館外交「ベトナム・韓国編」

県産品・県産農産物の輸出拡大や外国人観光客の誘客促進、本県投資環境のPRにつなげるため、各国を代表する駐日大使等に対し、福田知事が本県の魅力・実力をPRし、意見交換を行いました。



▲9/20 駐日ベトナム大使の知事表敬 ▲9/25 ベトナム国家主席との面会



▲9/8 駐日韓国大使館の知事表敬 ▲11/11 駐日韓国大使館訪問

■中国・浙江省との相互風景写真展の開催

栃木県と友好提携協定を締結している中国浙江省との芸術文化交流として、浙江美術館及び栃木県立美術館で、相互に風景写真展を開催しました。

浙江美術館『栃木県の四季』6/24～7/9



栃木県立美術館『絵のように美しい浙江省の風景』9/24～10/6



■日本・チェコ交流 100 周年記念バナー展示

駐日チェコ大使館と協力し、日本とチェコ共和国の100年以上に渡る交流史をまとめたバナー展示を、8/1～8/15に栃木県庁ロビーで行いました。



▲日本・チェコ友好協議連盟 船田元会長

■インディアナ日米協会テレサ・コザック専務理事の知事表敬

2022年11月10日、3年ぶりに来日したテレサ・コザック氏が、福田知事を表敬訪問しました。

テレサ氏は、1988年のインディアナ日米協会創設時から、日本とインディアナ州の友好の架け橋として、グローバルに活躍されてきました。

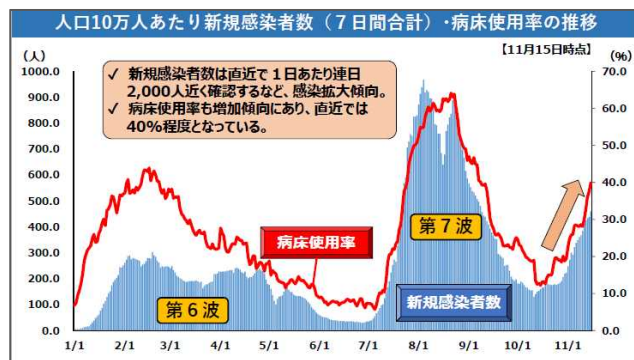
知事との会談では、姉妹提携を結ぶ本県とインディアナ州との20年以上に渡る交流の歴史を振り返るとともに、2020年に実施した「よさこい」交流イベントにより生まれた新たな文化交流などについて意見交換を行い、両県州の絆の強さをあらためて再確認しました。



▲インディアナ州のよさこいチームによる演舞

■新型コロナウイルス感染症の現状

11月より感染者数の増加傾向が続いていることから、県では、今冬のコロナとインフルエンザの同時流行も見据え、早期のワクチン接種を呼びかけるとともに、医療提供体制等の強化に向けた取り組みを強化しています。



発行・編集：栃木県産業労働観光部国際課
E-mail: senryaku@pref.tochigi.lg.jp
発行日：2022年12月13日（火）

世界で活躍する 「とちぎびと」の ご紹介

世界で活躍する「とちぎびと」の皆さまを紹介するこのコーナー。
今回は、米国ロサンゼルス市に所在する「南加栃木県人会」の田崎様に、同県人会の活動について執筆いただきました。田崎様、ありがとうございました。
南加栃木県人会の皆さまのますますの御活躍を期待しています！

南カリフォルニア栃木県人会 (通称：南加栃木県人会)

田崎 敏弘

1992年にロサンゼルスで設立された南加栃木県人会は現在、70会員家族と1会員企業で、約120名の会員がおり、同じ県人の相互の親睦を深めたり、栃木県をロサンゼルスの日系コミュニティや米国人へ紹介するために色々な活動を行っています。

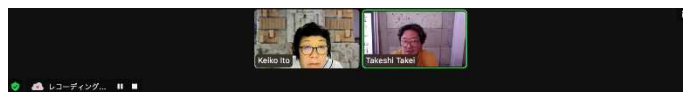
COVID-19の影響で毎年実施してきた様々な活動が休止となりましたが、2022年春頃からオンラインを活用したPRなど、形態や規模を変えて少しずつ再開されてきました。2022年3月にはロサンゼルス領事館主催の天皇誕生日祝賀会レセプションに、他の都道府県に先駆け栃木県が唯一ブースを出展し、栃木のPRを行いました。

会場では、県観光動画の放映やパンフレットの配布、とちぎ地酒の試飲、栃木から取り寄せた日光ラスクなどが振る舞われました。今回は規模が縮小され招待客の数が限定され例年よりも少なかったかわりに、1人1人が長い間ブースに足を止め、栃木の魅力を存分に感じてもらうことができました。栃木県は日光の世界遺産を有するほか、いちごやコメなどの美味しい農畜産物がたくさんありますので、もっと広く栃木の良さを知ってほしいと思います。



▲天皇誕生日祝賀会での栃木県紹介ブースの様子。
とちぎの地酒は来賓者に大絶賛

また、今年6月には、米アリゾナ州に拠点を置くフランクリンロイド財団と栃木県とをオンラインで接続し、米国に住む同財団の会員と日本在住者の方を対象に、栃木の特産品・大谷石をテーマにしたオンライン講演会を開催しました。米国側は米ワシントン大学 Ken Oshima 教授、栃木県側は宇都宮まちづくり推進機構・武井貴志氏がゲストスピーカーとして講演しました。ライト氏は、大谷石を使って旧帝国ホテルを設計した近代建築の巨匠の一人で、米国内での知名度はとて高いです。来年2023年に旧帝国ホテル・ライト館が開業100周年という記念すべき年にあたることもあり、米国で大谷石を広く知ってもらうためにも、今回のオンラインイベントを企画、運営しました。講演では、ライト氏と大谷石との出会い、帝国ホテルの設計に大谷石を採用した理由など、日米双方の観点から、大谷石とライト氏の知られざる事実が紐解かれました。



大谷資料館 宇都宮市大谷

1918年から1965年まで大谷石を切り出していた、採掘跡。
1974年から観光施設として公開されています。

映画やミュージックビデオのロケ地としても活用されています

Oya History Museum (site of underground quarry) in Oya district, Utsunomiya city

This is the site where Oya Stone was quarried from 1918 to 1965.
It has been open to the public as a tourist spot since 1974 and utilized as a filming location for movies and music videos.

▲米国人参加者に大好評となった、米国と栃木を繋いだ大谷石オンライン講演会の様子

日米合計で約150の方がライブで参加し、このうち米国側は3分の2を占めました。参加した米国人からは数多くの質問が出るなど、米国人による大谷石の関心の高さが伺えました。講演の様子は以下のリンクから動画を見ることができますので、機会がありましたらご覧ください。

bit.ly/3P1Izgu

連絡先：Tochigi Kenjin-kai of Southern California
144 Hazell Way, San Gabriel, California 91776, U.S.A
e-mail: tochigi.socal@gmail.com